

女子サッカーリーグにおけるメディカルサポートの現状と課題

大森 豪 (おおもり ごう)

新潟医療福祉大学 健康科学部健康スポーツ学科
アルビレックス新潟チームドクター

近年、女性スポーツの普及発展が目覚ましいが、同時に女性アスリートの身体特性や傷害発生などメディカルサポートに関する課題も指摘されている。

なでしこリーグは日本における唯一の女子サッカーリーグであり、現在3部合計32チームで構成されている。なでしこリーグの傷害発生について公式戦の報告書による2011～2014年の解析では384試合で147件の外傷が発生し、1試合当たりの外傷数は0.38件、プレーヤー1000時間当たりでは11.61件となっていた。受傷部位は膝関節が最多で、以下足関節、大腿、下腿、頭部顔面の順となっており、受傷内容では打撲・挫傷が最も多く次いで靭帯損傷、筋腱損傷が多く見られた。また、同様のデータベースに基づくJリーグの10年間(2000～2009)の解析では、1試合当たりの発生件数は0.64件と多く、受傷部位は大腿部、受傷内容は打撲・挫傷が最多と報告されている。一方、演者がチームドクターを務めているアルビレックス新潟レディースFCでは、2013年～2015年の3シーズンで試合及び練習中に受傷し、医療機関を受診した外傷は毎年45件前後であり、やはり膝関節を含む下肢が最多となっていた。

女子サッカーではいわゆる女性アスリートの3主徴(摂食障害、無月経、骨粗鬆症)に由来する障害は比較的少ないものの、靭帯損傷を含めた高エネルギー損傷の発生が見られ、危険因子の解明と予防的介入の必要性があると考えられる。